

# アライドテレシス × ビットブレイン

## 医療分野における安全・安心なネットワーク環境の構築に向けた協業

— 医療 DX を“現場で安全に動かす”ためのネットワーク基盤の取り組み —

### この資料の要点（30秒サマリー）

本協業は、医療 DX の土台となる「**医療データを安全・高速・安定的につなぐネットワーク基盤**」に関する取り組みです。電子カルテ、遠隔読影、医療機関間連携、医療 AI は、アプリや制度だけでは現場で動きません。患者情報や画像データを「**漏らさず・止めず・遅延なく**」扱える通信が前提になります。

今回、ビットブレインの医療専用閉域ネットワーク「**WCI**」と、アライドテレシスの **SD-WAN ルーター/医療向けインフラ構築力** を組み合わせ、全国の医療現場で使いやすい安全な WAN 環境の提供を目指す点に社会的意義があります。

## 1 何が発表されたのか（事実）

- 福井の IT 企業 **ビットブレイン** と、東京のネットワーク機器メーカー **アライドテレシス** が、医療機関向けに協業を開始します。
- 第一弾として、アライドテレシスの SD-WAN ルーター「**AT-ARX200S-GT**」「**AT-ARX200S-GTX**」が、ビットブレインの「**WCI**」サービスに対応。医療機関で高スループットかつ安全な WAN 環境を構築できるようになりました。
- 今後、遠隔読影をはじめ医療データの円滑な連携を支えるソリューションを、全国の医療機関へ広く展開していきます。

■ **登場する 2 社（いずれも一般的な知名度は高くありませんが、それぞれの分野で実力のある専門企業です <アライドテレシス HD(株) 東証 STD 6835>**

会社	どんな会社か
ビットブレイン	セキュリティ・ネットワーク・AIの研究開発に強みを持つIT企業（2015年創業、福井市）。医療分野で安全・安心な情報連携を支えるソリューションを提供。
アライドテレシス	1987年創業、日本発でグローバルに展開するネットワーク機器メーカー。スイッチや無線LAN等の製品に加え、構築・運用まで担うITインフラの専門企業。

## 2 1分でわかる用語（IT・医療に詳しくない読者向け）

本協業は「ネットワーク機器」と「通信のしくみ」の話です。まず最低限の言葉だけ押さえれば、記事の論点は十分つかめます。

用語	やさしい説明
閉域ネットワーク	利用者や接続先を限定し、通常のインターネットとは分けて通信するネットワーク。
SD-WAN ルーター	複数拠点の通信を、用途や重要度に応じて賢く制御するネットワーク機器。
ルーター/スイッチ	通信の行き先を整理し、安定・安全にデータを流すための基礎機器。

### たとえば

**WCI** = 「医療データ専用の安全な道路」。誰でも通れる一般道ではなく、医療機関など限られた相手だけをつなぐ考え方。

**SD-WAN ルーター** = 「通信の交通整理役」。大容量画像、電子カルテ連携、AI利用など、重要な通信を安定させる機器。

**本協業** = 「安全な道路」と「交通整理役」を組み合わせ、医療DXを現場で使える形にする取り組み。

## 3 なぜ重要か：医療DXは“つなぐ基盤”がなければ現場で動かない

医療現場では、電子カルテ、検査画像、紹介状、診療情報、AI解析など、データの重要性和容量が同時に増えています。たとえば遠隔読影では、CT/MRI等の大容量画像を離れた専門医が確認するため、遅延が少なく、安定し、かつ患者情報を守れる通信が前提になります。

一方で医療機関は 24 時間 365 日止めにくい業務を抱え、IT 担当者も潤沢とは限りません。安全性を高めるほど設定・運用は複雑になり、利便性を優先するとセキュリティ上の不安が残るというジレンマがあります。本協業は、この「安全にしたいが、現場で使い続けられる形にしたい」という課題への取り組みです。

## 医療現場で起きやすい4つのボトルネック

- **大容量化**：画像・動画・ゲノム・AI 解析データなど、扱うデータ量が増えるほど通信遅延が業務の妨げに。
- **セキュリティ**：利便性を優先した接続では、医療情報の漏えい・侵入・改ざんへの不安が残る。
- **多拠点連携**：病院・専門医・検査会社・医療 IT ベンダーを個別接続すると、設定・監査・責任分界が複雑化。
- **運用人材**：中小病院や地方では IT 専任者が限られ、導入後も無理なく運用できる仕組みが重要。

## 4 この協業で実現を目指すこと

医療機関・専門医・医療ベンダーを、インターネットとは切り離れた安全な経路で結び、大容量データを扱える WAN 環境を整えます。



実現が期待される用途： 遠隔読影 / 病院間連携 / 医療 AI の安全な共同利用

## 両社の役割

役割	主な内容	報道上の意味
ビットブレイン WCI	医療専用閉域ネットワーク。インターネット VPN を超える安全性と通信速度を実現したと説明される、専用線同様の通信技術。	医療データを一般インターネットから切り離して扱う選択肢。遠隔読影・病院間連携・医療 AI の土台。

役割	主な内容	報道上の意味
アライドテレシス SD-WAN	医療機関向けソリューションを展開。AT-ARX200S-GTX は LAN/WAN 双方で 10G インターフェースに対応する SD-WAN ルーター。	医療機関で実際に導入・運用できるネットワーク機器と構築力。

## 5 なぜこの 2 社か：実績と強み

本協業は新規の思いつきではなく、両社それぞれの実証・製品実績の上に成り立っています。

### ■ ビットブレイン (WCI)

- 2025 年 2 月、国内初となる多対多接続を可能とした医療専用閉域ネットワーク「WCI」を開発。
- 2025 年 2 月、千葉大学病院で WCI を活用した遠隔読影の実証実験を開始。
- 医療専用閉域ネットワーク上での医療向け LLM（大規模言語モデル）遠隔利用の実証にも使用。

### ■ アライドテレシス (SD-WAN)

- 1987 年創業、研究開発から製造・販売・構築まで担うネットワークインフラの専門企業。
- AT-ARX200S-GTX は 10G の高速通信、豊富なファイアウォールセッション数、多重構造によるセキュリティを備えた次世代 SD-WAN ルーター。
- 医療機関向けソリューションを展開し、現場で導入・運用できる構築力を持つ。

## 6 だれにどんなメリットがあるか

関係者	いま困っていること	期待されること	確認すべき点
医療機関	安全性・速度・運用負荷の両立	遠隔読影、病院間連携、大容量データ共有の環境整備	導入期間、既存システムとの接続、費用
医療ベンダー	病院ごとに異なる接続条件・セキュリティ要件	医療専用の接続基盤を前提にサービスを展開しやすくなる可能性	対応サービス範囲、責任分界点
政府・自治体	医療 DX を現場で横展開する際の基盤不足	地域医療連携、医療資源の有効活用、政策実装の選択肢	標準化、補助制度、県域連携との関係

関係者	いま困っていること	期待されること	確認すべき点
国民・患者	地域差、待ち時間、専門医へのアクセス	専門医・医療 AI につながる医療体制の拡張可能性	患者同意、説明責任、実際の医療効果

## 7 厚労省・政府・自治体にとっての意味

医療 DX は、国が進める全国医療情報プラットフォームや電子カルテ情報の標準化、診療報酬改定 DX と連動する政策テーマです。制度や標準化だけでなく、現場でデータを安全に流すネットワーク設計が伴って初めて実装が進みます。

- 医療 DX 政策を実際の病院運用へ落とし込むには、標準化に加え、広域で安全に接続できるネットワーク設計が必要。
- 地域の医療提供体制を維持するうえで、病院単位・ベンダー単位の個別最適ではなく、地域内外を安全につなぐ視点が重要。
- 医療機関・医療 IT ベンダー・通信事業者が分断されると、導入の遅れ、運用負荷、コスト増、セキュリティの抜け漏れが起り得る。
- 本協業は、医療専用閉域ネットワークと医療向け構築力を組み合わせ、現場実装のハードルを下げ得る点で政策的な意味がある（期待効果）。

## 8 記者の皆様へ：記事の切り口と取材の論点

### ■ 想定される記事の切り口

切り口	想定リード	主な関係者	補足取材先
地域医療	専門医不足の地域で、遠隔読影や病院間連携を支える通信基盤が問われている。	患者・病院・自治体	地方病院、放射線科医、県庁医療政策部門
医療サイバー	医療 DX の拡大と同時に、患者情報をどう守るかが重要課題に。	病院・政府・医療 IT 企業	病院情報システム部門、セキュリティ担当
医療 AI	医療 AI を現場で使うには、データを外へ出さず安全に処理する環境が必要。	医師・大学・AI ベンダー	大学病院、医療 AI 研究者、個人情報担当

切り口	想定リード	主な関係者	補足取材先
政策実装	国の医療 DX は、制度・標準化と現場ネットワークの接続が次の焦点に。	厚労省・自治体・医療機関	厚労省、デジタル庁、自治体、病院団体

## 取材で確認したい質問例

- Q1 : 実際の導入対象は、病院・診療所・検査会社・医療 IT ベンダーのどこまでか。
- Q2 : 既存の電子カルテ、PACS、遠隔読影システム、医療 AI との接続範囲はどこまでか。
- Q3 : 閉域性・安全性・速度をどう検証し、医療機関にどう説明するのか。
- Q4 : 国・自治体の医療 DX、地域医療連携、災害時 BCP とどう接続し得るのか。

## 9 表現上のお願い : 社会的意義は強く、未確認は断定しない

社会的意義（医療データを安全につなぐ基盤づくり）は積極的にお伝えいただきたい一方、『**完全に安全**』『**すぐ全国普及**』『**医師不足を解消**』といった**断定は避けて**いただけますと幸いです。導入条件・責任分界・実証結果のご確認をお願いします。

## 事実と、期待される効果の切り分け

事実（根拠あり）	期待される効果（推定）	現時点で断定しないこと
両社は、医療機関の安全・安心なネットワーク環境構築を目的に協業する。	遠隔読影、医療機関間連携、医療 AI 利用の実装を進めやすくする可能性。	導入医療機関数、市場シェア、費用対効果、実測性能、全国普及時期。
WCI は医療専用閉域ネットワークとして説明され、多対多接続を可能とする開発が発表されている。	インターネット経由のリスクを抑えつつ、大容量医療データを扱う選択肢になり得る。	すべてのサイバーリスクをゼロにする、全医療機関に即時導入できる、といった断定。
AT-ARX200S-GTX は LAN/WAN 双方で 10G インターフェースに対応する SD-WAN ルーター。	医療現場の高速化・安定化・運用設計を支える可能性。	個別医療機関での通信速度、運用負荷削減率、障害率。

## ■ 表現の言い換え例

避けたい表現	望ましい表現	理由
医療 DX はこの協業なしに進まない	医療 DX の現場実装では、こうした安全・高速な接続基盤が重要な要素の一つ	政策・標準化・院内システム・人材・費用など複数要因があるため
インターネット攻撃を完全に防げる	通常のインターネットと切り離れた設計で、リスクを抑えることを目指す	セキュリティは運用・端末・認証・委託管理も含めた総合対策のため
すぐ全国の病院に普及する	全国展開を目指す、導入条件や既存システムとの接続確認が必要	医療機関ごとに構成・予算・運用体制が異なるため
医師不足を解決する	専門医の知見を遠隔で活用しやすくし、現場負担軽減に寄与する可能性	医師不足は人材政策・診療体制とも関係するため

## 主な出典（確認日：2026年6月23日）

[PR] 両社作成プレスリリース原稿（2026年6月26日付）

[1] 厚生労働省「医療 DX について」 <https://www.mhlw.go.jp/stf/iryoudx.html>

[2] 厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第 6.0 版」  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000516275\\_00006.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000516275_00006.html)

[4] ビットブレイン「Wires Connect Intelligence (WCI)」 <https://bit-brain.jp/wci/>

[5] ビットブレイン「国内初！多対多接続を可能とした医療専用閉域ネットワークを開発」 <https://bit-brain.jp/news/20250203/>

[7] アライドテレシス「医療機関向けソリューション」 <https://www.allied-telesis.co.jp/solution/medical/>

[8] アライドテレシス「AT-ARX200S-GTX」 <https://www.allied-telesis.co.jp/products-list/at-arx200s-gtx/>

[10] ビットブレイン等「医療機関向け LLM 遠隔利用実証」（2025年6月）

※本資料は、提供プレスリリースの理解を助けるための補足資料です。詳細・お問い合わせ先はプレスリリース本文をご参照ください。